

令和4年 新年のごあいさつ



洞爺湖町議会議長

大西 智

新年明けましておめでとうございます。皆さまには、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年から新型コロナウイルスが全国で猛威を振るい、日常の暮らしやこれまで普通に行っていたことが制限されるなど、普段の生活や社会経済へ大きな影響を与え続けています。

現在は、感染者が全国的に減少傾向にあります。新型コロナウイルスの新たな変異株による感染が確認されるなど未だに収束が見通せない状況にあり、私たち一人一人が感染予防対策に今後もしっかり取り組むことが求められておりますので、皆さまのご協力をお願いしたいと思います。

当町におきましては、昨年度から引き続き、町独自の生活支援や事業者支援の対策に積極的に取り組むとともに、医療機関の協力のもと、ワクチン接種などによる感染防止対策も進めてまいりましたが、未だに収束が見えない状況下では、引き続き取り組みが必要であります。

また、コロナ禍後を見据えた観光振興、地域活性化など町の賑わいを取り戻す取り組みを積極的に進めて行くことも求められておりますことから、議会といたしましても、町や関係機関・団体と連携、協力しながら必要な対策の推進に努めてまいります。

議会におきましては、これまでと同様に感染対策を図りながら、委員会の活発な活動、議会の主導的な活動に取り組み、町民の代表として、議員一同決意を新たに議会活動に努めてまいりますので、町民皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

コロナウイルス感染症が早期に収束し、本年が皆さま方にとってより良い年となりますようお祈り申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。



洞爺湖町長

真屋 敏春

新年明けましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より行政運営に関して多大なご協力、ご支援を賜わり、深く感謝申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスの猛威の中にあつて町が大きな転機を迎えた年となりました。「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録決定し、構成資産となる「入江・高砂貝塚」も仲間入りすることとなりました。この快挙は、ひとえに関係者の皆さまによる熱心な働きかけの賜物であり、厚く御礼申し上げます。

今回の登録により、当町から入江・高砂貝塚、洞爺湖有珠山ジオパークと世界に誇れる遺産が2つも生まれました。人口1万人足らずの自治体では異例であり、当町の自然と文化の価値を証明するものです。次世代の人々が豊かな自然と貴重な史跡から様々な恩恵と学びを得られるよう、先人より受け継がれてきたこれらの遺産を未来へと守り抜く決意です。

また、アイヌ民族共生拠点施設「ウトウラノ」、洞爺湖中島・湖の森博物館、J R洞爺駅エレベーターが完成、洞爺湖温泉大通り線改良工事が完了し、入江・高砂貝塚館がリニューアルしました。町内での生活や観光を支える体制が一段と整い、新年はコロナ収束後を見据えた活性化を進める所存です。併せてコロナ禍に苦しむ事業者の支援にも引き続き取り組んでまいります。

未だ先の見えないコロナ禍の影響下にありながら町の展望を描くことができるのは、町民の方々に感染予防を徹底していただいたからこそです。予断を許さない状況が続きますが、新年も洞爺湖町が一体となって未来に向かって歩んでいけるよう尽力してまいります。本年が皆さまにとって明るい一年になりますようご祈念申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。